

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概要版】

<p>学校名</p>	<p>山口県萩市立椿東小学校</p>
<p>研究課題</p>	<p>マネジメント力の強化をめざす新しい連携・協働体制の構築 ～ 連携から協働へ ～</p>
<p>研究のねらい</p>	<p>学校・家庭・地域によさや目標・課題を共有し、学校支援団体や関係機関等との連携・協働体制を構築して、よさの伸長や課題解決に向けた具体的・実践的なプロジェクトを策定する。</p> <p>(1) 学校課題や地域のニーズを共有し、資源を最大限活用しながら解決を図ろうとする効果的な学校運営協議会のあり方を検証する。</p> <p>(2) 加配事務職員や萩市 CS コンダクター（地域連携推進員）の配置を活かし、首長部局や地域との実効性のある連携体制を構築する。</p> <p>(3) 学校・家庭・地域によさや目標・課題を共有し、学校支援団体や関係機関等との連携・協働体制を構築し、よさの伸長や課題解決に向けた具体的・実践的なプロジェクトを策定する。</p> <p>(4) 研究指定校である萩市立椿東小学校を核として萩東中学校区地域協育ネットや萩市モデル校区との連携を強化し、取組の成果を広めていく。</p>
<p>研究の概要</p>	<p>(1) 学校課題や地域のニーズを考慮し、CS 委員自身も参加・参画しながら、学校・家庭・地域が連携・協働して知・徳・体の調和のとれた教育を推進することのできるコミュニティ・スクールの推進体制を構築した。(右：推進体制図)</p> <p>(2) 加配事務職員の働きかけや萩市 CS コンダクターの助言により、首長部局や地域との実効性のある連携体制を構築し、キャリア教育等の推進を図りながら、学校支援や地域貢献の輪を広げてきている。</p> <p>(3) 学校・家庭（PTA）・地域が一緒になって熟議や部会を重ねることで、プロジェクト部会が機能し始めている。(右：写真参照)</p> <p>(4) 小中連携の強化や萩市モデル校区との連携や他校への情報発信を目に見る形で進めることができた。</p> <p>① 萩東中学校区「夏柑ネット」関係小中学校の行事等の共有</p> <p>② 「やまぐち地域連携教育研修会（萩会場）」にてコミスク担当が実践発表（右：写真参照）</p> <p>③ 「やまぐち地域連携推進事業 萩市モデル校区合同研修会」の開催</p> <p>(5) 学校支援が円滑に気持ちよく進められるようにするために、学校支援の手引きを作成した。手引きは、学校へ入られる支援者用だけでなく、支援者を受け入れる学校教職員用の手引きも作成したことが特徴としてあげられる。</p> <p>(6) CS 委員にも参加していただいて授業を公開し、外部意見を取り込むことによって授業改善をねらう「ユニット型研修」推進の体制を整え、人材育成と校内研修の活性化を図っている。</p>



- (1) コミュニティ・スクールの新しい推進体制の構築による効果
- ① 知・徳・体の調和のとれた「生きる力の育成」をめざして、学校・家庭・地域が学校課題や学校教育目標を共有しながら教育活動を展開していく体制が整ったことで、従来の教育活動の見直しを図ったり、新たな取組を始めたりすることができるようになってきた。
 - ② 学校運営協議会の持ち方やプロジェクト部会推進におけるCS委員の関わり方等を見直すことで、椿東小らしさのあるコミュニティ・スクールへと変革しつつある。
 - ③ 椿東コムスクマークの作成を児童計画委員会が全校児童へよびかけ、代表委員会で候補を決定。その後、コムスクマークを決定し、全校児童集会の中で発表。マークをさまざまな場面で活用し、周知を図っている。
- (2) 関連する首長部局との連携による効果
- ① 吉田松陰等、郷土の偉人や地元世界産業文化遺産群についての調べ学習地域産業等、地域資源を活かした学習を通して、ふるさとを誇りに思う子供の育成に努めている。その際、萩市観光課や農政課等、関係首長部局による学習支援がキャリア教育等、さまざまな学習の充実につながった。
 - ② 学校運営・学校支援に加え、地域貢献を重視した活動を関係首長部局との連携によって展開することで学校が核となり、地域ネットワークが活性化するような働きかけが進みつつある。
- 〈取組例〉
- ◇農政課による3年生「柑橘学習」
 - ◇健康増進課による6年生「生活リズムに関する学習」
 - ◇観光課・世界文化遺産課による4～6年生「おもてなし活動（ガイド他）」
 - ◇文化財保護課4～6年生「萩市の世界遺産学習（現地説明）」
- (3) 加配事務職員の配置による効果
- ① 学校と地域をつなぐパイプ役としての活動により、CS委員や各団体等との連絡・調整、外部人材招聘による特色ある教育活動の充実が図られた。
 - ② 学校情報の発信役としての活動により、コムスク通信の作成、学校だよりなどの地域支援者への配付や地域回覧、学校ホームページのリニューアルなどに着手し、大きな成果をあげることができた。
 - ③ 教職員からの学習支援の要望を受けて、適切な支援者や外部講師を選択するサポートを行うとともに、該当者への連絡や日程調整を担当することで、教師の学習に向かう時間を保障することにつながった。
 - ④ 小中連携強化のための取組として、関係校4校の行事予定を合体させた「夏柑ネットカレンダー」を作成。他地域にも取組を広げることができた。
 - ⑤ 学習支援者や首長部局等と教職員とをつなぐ役割を果たす中で、互いのよりよい関係を築くために「学習支援の手引き」を完成することができた。
- (4) 萩東中学校区地域協育ネットや萩市CSコンダクターとの関わりによる効果
- ① 萩東中学校区地域協育ネット「夏柑ネット」や小中合同学校運営協議会で課題を共有しながら共通テーマを設定。合同実践を行うシステムにより、切れ目のない支援体制が構築された。
 - ② 小中共通課題を確認し、学校評価項目の一部共通化を実施。その結果を分析し今後の取組の方向を再度確認した。小中連携カリキュラムも作成。今後活用していく。
 - ③ 「夏柑ネット」や合同学校運営協議会での取組の様子が、山口CSコンダクターによってCS通信で萩市の全小中学校へ配信され、コムスクの情報の共有や活用につながった。
 - ④ 萩東中学校区小中合同研修会を拡大して萩市モデル校区の全小中学校へ参加を呼びかけ、講師を招聘して「コムスク基礎講座」や中学校区別グループ協議を設定するなどニーズに合わせた研修を行うことができた。



研究の成果

本件

萩市教育委員会 学校教育課 小野 晃子

問い合わせ先

TEL:0838-25-3558 FAX:0838-26-3561 E-mail:gakkyou@city.hagi.lg.jp